

あなたが活きる そして、響きあう社会へ



ファシリテーション活用支援プログラム 2010年度 実施報告

目次

はじめに.....	1
「ファシリテーション活用支援プログラム」の紹介.....	1
■ プログラムを活用した<団体：事業名>の紹介	
・ 慶應大学・神奈川県藤沢市： 討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）.....	3
・ 栃木県障害福祉課： 「栃木県障害福祉課 ファシリテーション講座」.....	5
・ 神戸市（保健福祉局、須磨区）こうべUD 推進会議（こうべUD 広場） 神戸市 UD(ユニバーサルデザイン)学習会.....	7
・ 愛媛県看護協会： 「ファシリテーション研修」.....	9
・ 愛知県相談支援専門員協会： 相談支援専門員のためのファシリテーション入門.....	11
・ 沖縄県北部広域村圏事務組合： 「北部広域”やんばる”12市町村「自転車活用まちづくり」のビジョンとは！」.....	13
・ 秋田市地位包括支援センター（社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会内）： 全体研修会 「ファシリテーションの基礎知識について」.....	15

はじめに

「ファシリテーションを学び、育て、活かせる場を日々耕し、多様な人や組織がつながっている」・・・。
2009年度に引き続き2010年度も「ファシリテーション活用支援プログラム」の7の現場でこれが実践され様々な成果や気づきが生まれました。本報告は、これからも多様な組織とつながり響きあう社会を創り出すために、多くの方にこのプログラムを知って活用していただくために作成しました。ぜひご一読ください。

「ファシリテーション活用支援プログラム」の紹介

【事業の経緯】

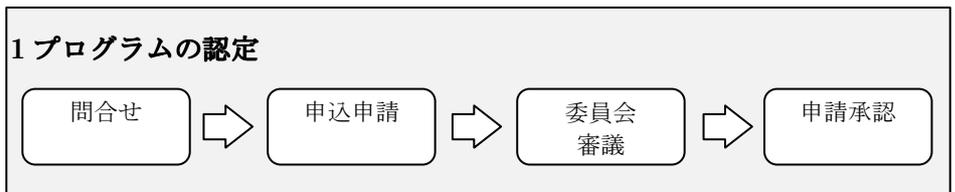
日本ファシリテーション協会（以下、「FAJ」）では、発足以来、「講師・ファシリテーター紹介事業」を実施していましたが、ファシリテーションが一定程度普及し、研修などのサービスを提供する企業が増えたことにより、当該事業は、その役割と目標はほぼ達成したと判断し、2007年度をもって終了しました。

一方で、企業によるサービスは増加したものの、非営利組織や地域コミュニティなど、必要性はありながら資金面の制約からそれらのサービスを十分受けられない組織や団体が多く存在している事実がありました。また、FAJとして、より多くの会員にファシリテーションを実践する機会を広く提供することが課題となっていました。そこで、2008年度から、「公共性」「非営利性」「公開性」などの要件を満たすワークショップ・研修などの依頼に対し、会員からファシリテーター（講師）・コーディネーター・アシスタントなどを公募し、チームとして対応する「現場紹介事業（ファシリテーション活用支援プログラム）」をスタートしました。

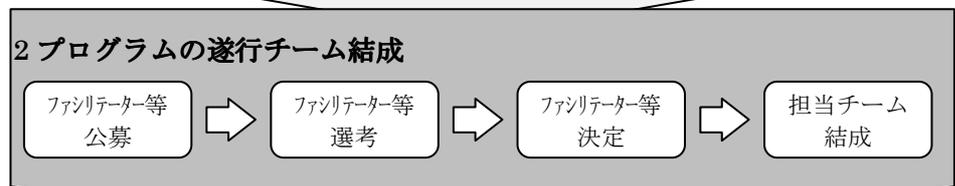
その後、名称による混乱を避け、NPOのミッションとしての「社会に対して発信する事業」という視点を強調するため、2009年7月からは事業の名称を「ファシリテーション活用支援プログラム」（略称：ファシ活）に統一し、現在に至っています。

【事業内容】

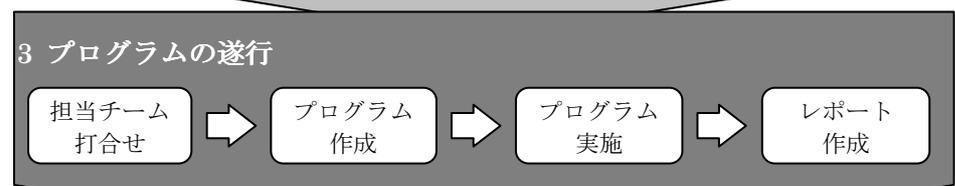
依頼者はFAJのHPより問合せ、ファシリテーション活用支援プログラムの申込申請をおこなう。申請内容について委員会で審査、承認する。



FAJ 会員内でファシリテーター等を公募。応募者からファシリテーターを選考、決定する。



依頼者と担当チームでのプログラム打合せをおこない、プログラムを作成する。プログラム実施後はレポートを作成する。



1. プログラムの認定

協会の内外より、ファシリテーションに関する講演・研修、ワークショップの企画・運営、ファシリテーターの派遣などの依頼があった場合、ファシリテーション活用支援プログラム委員会(以後、ファシ活委員会)においてプログラムに認定するか否かの審議を行います。承認検討は以下の3つの観点から行われます。

【協働性】

本プログラムは、【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むこととなります。単に「サービスを提供する／される」という関係ではなく、いろいろとご協力をいただくことが前提となります。よって、時間的余裕(3ヵ月程度の準備期間を想定しています)がない事業は不可となります。

【公共性】

当会は非営利活動法人であり、本プログラムは財政的に十分でない団体や公益性の高い事業に対する支援を目的としております。営利目的の事業や、参加費を徴収する事業は不可となります。ただし、公益目的や地域活動等の事業で、徴収する参加費が実費範囲であることが確認できる場合は可となります。

【公開性】

本プログラムは、実践事例の紹介を通じたファシリテーションの普及も目的の一つとしています。ファシリテーションの活用事例として報告書の作成や本会が開催するイベントでの事例報告、本会会員に対して現場でファシリテーションの力を磨く機会、本会会員が現場でのファシリテーションの活用事例を知る機会の提供も目的としています。次の2点につきましてご理解、ご協力いただけることを条件とします。

1. ワークショップ・研修などの場にファシリテーター(講師)以外のコーディネーター、アシスタント、見学者などが同席できること。
2. 本会のニュースレター、イベントなどでワークショップ・研修の様子を定例会、WEBなどを通じて公開すること

2. プログラムの遂行チーム結成

ファシ活委員会で承認後、全会員にファシリテーター、講師を公募し、コーディネーター、アシスタントを含むチームを結成します。

3. プログラムの遂行

【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩むこととなります。

□主催：慶應大学・神奈川県藤沢市

□事業名：討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）

□参加者数：258名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：徳田太郎、小笠原啓一（東京支部）／ファシリテーター：浅羽雄介、阿部正幸、岩
渕直樹、小笠原啓一、竹田和矢、辰巳厚子、錦澤滋雄、樋渡由希恵（以上東京支部）、百野あけみ（中部
支部）／アシスタント：無／見学者：無／プログラム担当理事：徳田太郎

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

慶應義塾大学 DP 研究センターの討議型意識調査（Deliberative Polling、以下 DP）と同様、どのよう
にモデレーター（ファシリテーター）を確保するかが課題となっていたが、上記 DP および神奈川 DP
の際に日本ファシリテーション協会の会員が多数モデレーターを担当していたことから、その場でコー
ディネーターに対し「ファシリテーション活用支援プログラム」の適用を依頼した。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：社会・経済情勢等の急激な変化に対応し、「市民の目線に立った市民経営」の展開と「一生住み
続けたいまち 湘南藤沢」の実現を図るため、新たな総合計画を策定する。

②ねらい：上記新総合計画を策定するにあたって、「幅広い市民参画と市民による市民のための計画策定
を実現」という目標を掲げた。この目標を達成するためのひとつとして、DP を通じて、市の施策
や地域の活動に興味を持っていてもなかなか参加する機会等がない市民に、新総合計画の策定に係る世
論調査への参画と意見をいただく。

③成果イメージ：藤沢市民の「藤沢の選択」に対する意識を幅広く抽出することができる。

④成果（終了後）：DP として一定の成果を収めることができ、2011年5月に初の全国版 DP を開催す
ることが決定した。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010年8月28日

次ページに詳細を記す。

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

主催者が 2 つの団体となっているため、準備や運営において、相変わらず情報伝達や連携が不十分で、
しばしば混乱が見られるなど、ファシリテーション以外の部分で神経を使うことが多かったが、複数回担
当していた人間が舵を取ることで、前回より混乱は少なくなった。「モデレーターが交代しても、討
議が何ら変わりなく進むことが理想」という DP のファシリテーションからは学ぶことが多く、人と人
との繋がりを築いていく上でファシリテーションが大きく貢献するということについて、改めて実感を深め
た。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■討議イベント前日

- ・11:30～12:30 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにて、「ファシリテーション活用支援プログラム」参加メンバーによる「キックオフ・ミーティング」を実施。前回の藤沢DPの際と同様、参加メンバーの居住地が広範にわたっており（北は茨城から、南は名古屋まで）、事前に全員が集まって打ち合わせを行うことはできなかったため、それまではメールベースで自己紹介やプロジェクトにかける思い、疑問点などを共有してきたが、このキックオフ・ミーティングが文字通りの初顔合わせとなった。
- ・13:00～18:00 DP主催者による「モデレーター・トレーニング」。ジェイムズ・S・フィシュキン (James S. Fishkin) スタンフォード大学教授、ロバート・ラスキン (Robert C. Luskin) テキサス大学准教授、曾根泰教・慶應義塾大学大学院教授らのレクチャーとロールプレイング体験。前回の慶應DPに比べ参加者が少ないにもかかわらず、シミュレーションを多く行うためシミュレーショントレーニングは2つに分かれて行われた。
- ・19:00～21:00 近くの居酒屋で「がんばろう会」。

■討議イベント当日

- ・8:30～ 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに集合し、主催者と共に簡単な打ち合わせ。モデレーターはすぐに各会場に移動し、場づくりに取りかかる。前回の経験もあり、比較的準備に時間はかからなかった。
- ・9:20～9:50 参加者がホールに集まり、主催者として海老根靖典・藤沢市長が挨拶。引き続き、オリエンテーションと事前アンケートを行った。
- ・10:00～11:30 1回目のグループ討議。『藤沢の選択、1日討論』藤沢の高齢化と市民の選択」をテーマに、「高齢化にどんな仕組みで対応するべき」「今後老朽化する公共施設の廃止・維持・建て替えなどの判断は誰が中心になって行うべき」といった論点について討議した。自由な意見交換の後、専門家（パネリスト）に対する質問を作成した。
- ・11:40～12:50 1回目の全体討論。各グループから、専門家（パネリスト）に対して質問を行った。司会者は曾根泰教・慶應義塾大学大学院教授、パネリストは後房雄・名古屋大学大学院教授、田中美乃里・特定非営利活動法人地域魅力理事長、中里透・上智大学准教授。
- ・12:50～13:45 昼食休憩。モデレーターは控室で昼食を共にし、情報の共有と意見交換を行った。
- ・13:45～15:15 2回目のグループ討議。「藤沢における地域内分権・新しい公共」をテーマに、2つの論点について意見交換し、専門家（パネリスト）に対する質問を作成した。モデレーターの仕事は、ここまでで終了。
- ・15:30～17:00 2回目の全体討論。パネリストは田中氏、中里氏の他、穂坂邦夫元志木市長が加わった。
- ・17:00～17:30 引き続きホールにて事後アンケートの実施。
- ・18:00～20:00 近くの居酒屋で「おつかれさま会」。長かった2日間が終了。

■後日談

・「ファシリテーション活用支援プログラム」として、神奈川 DP と、2 回の藤沢 DP に関わることで、事務局の先生と振り返りをした結果、2011 年年金 DP の際の先行打ち合わせが可能となった。

□主催：栃木県障害福祉課

□事業名：「**栃木県障害福祉課 ファシリテーション講座**」

□参加者数：14名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター兼ファシリテーター：菊地敦子（東京支部）／アシスタント：富士慎一郎、朝野舜、鈴木啓太（東京支部）／見学者：なし／プログラム担当理事：小藤輝正

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

本県では、障害者の相談支援を担う相談支援従事者の研修を、栃木県自立支援協議会研修検討部会（県内の相談支援事業所職員等15名）において、企画、運営しています。その研修を効果的に運営するために必要なファシリテーション技術を学ぶために依頼しました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：

研修は参加者のグループを中心とした演習で構成されており、受講者の意見や力を引き出すファシリテーション技術が求められていますが、各自、自分の経験や考えをもとに、グループを動かしているのが現状です。

②ねらい：

グループワークを効果的に進めていくために、必要なファシリテーションの基礎知識や技術を講義と演習を通して学びたいと思います。

③成果イメージ：

ファシリテーションのイメージ共有ができて、小さな成功を体験する。また、プロセスの把握のスキルを知り、やってみたい!!と思っている状態。

④成果（終了後）：

紙芝居の使い方、場の作り方、ファシリテーターの皆様の関係（自他尊重という空気を感じました）などなど、本当にたくさんの学びがありました。

□形式： ●ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010年10月26日（金）10:00～16:00

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者（担当者談）：

私自身は、今回の研修終了後、帰宅途中の車の中で（笑）、菊地さんのおっしゃる「考えるな・感じろ」の意味がストンと落ちたような気がしました。あの手の感覚、安心して委ねる、自ら自然に動いているということ、これがファシリテーションだ！と勝手に解釈しています。（本当かな？）受講者の中にも、ここがピンとこなかった人いたかもしれません。

また、私としては、研修を企画していく過程そのものも大きな学びとなりました。2回目の打ち合わせの時は、体調管理が出来ずテンションが低い状態でのスタートでしたが、知らず知らずのうちに、楽しくなっていました。それは自由に意見を出してもいいんだというメッセージが皆様から感じられたからだと思います。今後は、受講者の意見を聞きながら、研修継続の方向性を探っていきたいと思

ます。また地元の菊地さんのお力添えをお願いしたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

☆F A J 会員：

初めてのファシ活で、初めての講師でした。とっても不安でしたが、3人の愉快的な仲間を支えられて、安心して当日を迎えられました。講座は1日5時間しかありませんでした。限られた時間の中で、要望に応えようと「ワークショップ」(中野民夫著)の中にあるボーイスカウト・ガールスカウトのリーダー研修を創る過程を見習いました。ファシリテーションに関する事前アンケートの実施や、担当の大野さんと一緒に考えました。惜しまれるのは講座の時間が30分伸びてしまったところです。次回は、押しても時間はきちんと守りたいと思います。

終了後受講者からのコメント(抜粋)

Q：講座の中でこれいただき!!と思える部分はありましたか?

- ・グループサイズを変えるところ
- ・ファシリテーションの限界→気づくことでのゆとり
- ・ファシリテーターの役割など
- ・OARR、議論のプロセス
- ・「誘導」に関する質問の答え
- ・Fされた経験を出しあうところ
- ・「Frが発言するときに、一旦役を外れるといい」
- ・紙を貼りながら講義をする方法

など

Q：ファシリテーション/ファシリテーターのイメージは前後でどのように変化しましたか?

- ・堅苦しく考えていたが、もっと楽に考えてよいことに気づき、ホッとした。
- ・複雑に考えずにシンプルに捕らえてよいのだと気づけました。
- ・時間に限りがあるので、スケジュールに疲れる感じはあった。
- ・堅苦しいものと思っていたが、実に日常的なものだとわかった。逆に使う、使える範囲が広すぎて、よく勉強せねばと思った。

- ・日常で意識すればたくさんあること。次回の研修で学んだことを実践したいと思います。
- ・わからなくて難しい→わかり始めてもっと知りたい

など

□主催：神戸市（保健福祉局、須磨区）こうべUD推進会議（こうべUD広場）

□事業名：「神戸市UD学習会」

□参加者数：22名 同一メンバーで3回

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：西（関西支部）／ファシリテーターアシスタント：世良、藤井、三井、水江、山上、芳本、和田、森田（関西支部）／見学者：無／プログラム担当委員：上井

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

年齢や性別、国籍、身体状況などに関係なく、すべての人にとって利用しやすく、住みやすいまちづくりを進めるために必要な考え方や行動を、広く区民に普及するため、地域が主体となった学習会・ワークショップの開催を支援する。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：神戸市は以前から福祉のまちを推進してきた。神戸は、阪神淡路大震災で、大きな被害を受けたが、震災を契機に、多くのNPOやボランティアが育ち、市民の助け合いのこころが育まれた。復興過程を経た市民活動を受けて、神戸市は、ユニバーサルデザインの考え方を全市に広めようとしている。

②ねらい：ユニバーサルデザインの考え方や行動を、普及させる。

③成果イメージ：一人ひとりが、これからの活動に、ユニバーサルデザインの考え方を生かしてもらう。

④成果：最後はワールドカフェにより、ひとりひとりの考えを深め、そのアイデアを共有する事で、宿題として持って帰ってもらった。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：2010年9月27日～2010年11月29日

1回目：10月18日 UD講義、旗揚げクイズ、感想と質問

2回目：11月8日 ○×クイズ、みんなに思いを伝えよう

3回目：11月29日 ワールドカフェ

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

我々を含めて4つの団体組織が、ふれまち協議会という複合組織（9団体の構成）に対して行ったワークショップ。それぞれ思惑も違えば、性質も違うそんな中でワークショップを作り上げていく、ある種コラボレーション環境の中での体験は、なにものにも変え難いものだった。

最初から問題はあった。一昨年、昨年と同様の企画でありながら、スタッフのほとんどが、初めての参加であり、1から作り上げるしかない状態であった。決して完璧なチームではなく、至らなかった部分も多かった、だが、問題が持ち上がるたびにチームとして結束し、思わぬ力を発揮していった。

振り返ってみると、ターニングポイントは、いくつもあった。最初の顔合わせから、2回目の会合で、ゴールを決めることからはじめた時点、目標の高さとして「松・竹・梅」が指標となった時点。この時、目標が3段階に調整可能となった。

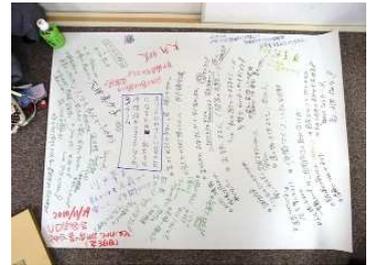
1回目のワークショップでは、スタッフの緊張が最高潮に達した。本当のターニングポイントは、その次にあった。それは、2回目のプログラムがほぼ決まりかけた時のことだった。1回目、菅の台の人々の感触を掴んだこともあり、比較的スムーズに決まりかけていたが、念のため、スタッフ全員



の意見を聴いていく中で、「実は、・・・」と思ひもかけない言葉が飛び出し、周りが凍りついたようになった。それは、日頃菅の台の人々と直接接しているスタッフからの真実の声だった。そして、我々は、本当の現状を知り、ほぼ決まりかけていたプログラムを一から見直す事にした。あのまま続けていたら、菅の台の現状に合わないプログラムを進めていただろう。その後、FAJ スタッフのみでプログラムを詰めてゆき、2回目のワークショップが行われた。



3回目に向かったの話し合いは、2回行われたが、それぞれに、ターニングポイントがあり、話し合いが深まっていった。当初、3回目のプログラムについては、いろいろなアイデアが出た。だが、みんなが腑に落ちるものはなかった。閉塞感が漂い、考えを変えるきっかけが欲しかった。そんな中で、「楽しくなければ・・・」の発言が、きっかけになった。最終的にはその案にはならなかったが、まさにその言葉がきっかけで、みんなの視点が変わっていくのを実感した。ターニングポイントは、起こるべくして起こった。



<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

- 芳本 (FAJ 会員) : 住民の方とのワークショップは初めて体験しました。今回はゴールがあいまいなまま市役所メンバーとの対立と合意形成を一方で体験でき、もう一方で住民の方と共創していく。実に贅沢な現場体験でした。少し自分が成長できたように思います。一緒に作り上げた FAJ のメンバーと一つのチームに成れました。新しい友人たちに乾杯(^_^)!
- 水江 (FAJ 会員) : 今回初めて参加しました。場の力、人の力を実感出来、貴重な経験でした。プログラム設計のプロセスも大変勉強になりました。計3回の開催の間隔も適度で、着実に積み重ねていく感じが良かったと思います。私は開催地(菅の台)の極近所に住んでおり、参加者とは過去幾度もすれ違っていたかもしれません。この機会に“対話”のきっかけをつかめました。ご縁に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。
- 和田 (FAJ 会員) : 私は2回目の参加でした。旗揚げクイズ学習、○×クイズの予期せぬ笑い、ワールドカフェでほとぼしるように出た地域の人々の思い。仲間と集まり話しあった2ヶ月はあっという間でしたが、充実し楽しい支援活動でした。またやりたい!

<主催者からのメッセージ>

- 2010年4月より神戸市においてUDを推進する部署に配属となり、今回の菅の台UD学習会がはじめての地域へのUD啓発の機会でした。ファシリテーション協会の皆さまの積極的な話し合いと周到な準備により、「菅の台の住民が望む形」を見据えながら、UDについて啓発していくことができたのは非常に勉強になりました。市としても地域がUDに取り組む支援をしていきたいと考えており、今回の菅の台のケースを一つのモデルとして取り組んでいきたいと思ひます。

□主催：愛媛県看護協会

□事業名：「ファシリテーション研修」

□参加者数：40名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター&ファシリテーター：野口和裕（広島スクエア）／アシスタント：村岡千種（中部支部）・宇都宮久記（四国サロン）／見学者：無／プログラム担当委員：遠藤智栄

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由<主催・依頼者>

研修テーマにつきましては、昨年の広島県看護協会の研修計画を拝見して「このテーマで愛媛でもやってみよう」という教育委員会での希望で企画いたしました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：自分の言いたい事を伝えたり、スタッフの意見を引き出すのが難しいと感じている人が多い。また医療が高度化し、他職種との関わりが増え、違う意見をまとめていく必要性が大きくなってきた。こうした課題について、ファシリテーションが役に立つのではないかと考えた。

②ねらい：環境が大きく変化する中、組織は人々が活動を容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶように舵取りするファシリテーターを必要としている。医療の現場では、看護職こそがコメディカルをつなぎチーム活動を推進するファシリテーターといえる。看護職にとって必要とされるファシリテーション・スキルについて学ぶ。

③成果イメージ：自分の言いたい事を伝える事ができるようになる。ただ現場でひとりだけできても実践は難しいので、病院単位で実施する事を期待している。

④成果（終了後）：研修後のアンケート結果は、満足度4.7点（5点満点）、理解度4.7点、役立ち度（4.6点）で「明日から実際にやってみようと思う研修だった」とのコメントがあり、いくつかのヒントを持ち帰っていただけたのではと思っています。

□形式： ○ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010年12月15日

・当日まで、メンバー全員で研修プログラムを検討+リハーサルを行いました。

・メインの進行は野口、アイスブレイク・グラフィックは村岡、テーブルファシリテーターは宇都宮が担当しました。

・ビジネスピープル、薬剤師、歯科医師のそれぞれの視点から研修途中に適時フィードバックを行いました。

・内容は場のデザイン、対人関係、構造化、合意形成のスキルを実施

□ふりかえり<ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など>

☆主催者：私自身、職員間で仕事上の優先順位のことで意見が違っていてついつい対立することがありますが、さっそく教えていただいたようになぜ自分がこうしてほしいと望むのかを話し、相手の思いも教えてほしいと伝えると、あっさりとして要求が通り、直近の問題が解決しました。受講生の方々にとっても有意義な時間であったと思っています。

☆FAJ会員：

顔を合わす機会に限られる中、チームとして機能するように、全員工夫を行いました。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■野口和裕：

私の懸案は2点ありました。1点は直接のコミュニケーションの機会が限られる中、チームとして機能させなければならない、という事。もう1点は5時間という研修時間で、ファシリテーションの効果を十分に伝えられるかどうかという不安でした。

結果的にどちらもある程度のレベルはクリアできたのではないかと考えています。

チームとして機能するには、まずメンバー各自の役割を明確にし合意する必要がありますが、最初に必要な時間の時間を十分とらずに、内容の検討を進めた点が私自身の大きな反省点です。

2つめの時間ですが、研修内容をメンバーで何度も検討し、アクティビティのねらいを明確にし、実践同様のリハーサルを行い、プログラムをつくりあげました。事前にリハーサルを行う事で、プログラムの検証もできましたし、メンバー相互の理解も深まりました。これはメンバーの1人がリハーサルの場をお膳立てしてくれたおかげです。

個人的な感想は、素晴らしいメンバーと主催者、受講生の方に恵まれ、学びが多く、とても楽しい時間を過ごす事ができました。

■村岡千種：

今回、アシスタントとして参加させていただき、研修講師の経験がほぼない私にとってはとても貴重な経験をさせていただきました。

研修当日のプログラムを作成するための過程で、私たち自身のチームビルディングやファシリテーションの大切さを実感し、それをどのように受講者のみなさまに体感していただくのかということを考える機会となりました。また、さまざまな背景を持つメンバーと一緒にこの研修について考えることでファシリテーションの奥深さ、実践する事と伝える事の違いと難しさを一層感じました。

遠距離での参加で、どのようにチームに貢献できるか悩みましたが、アイスブレイクとグラフィックを担当させていただき、感謝しております。担当箇所を通じて自分の次の課題も見つける事ができました。

医療の世界でも医療職と患者、医療職と医療職、様々な関わりのなかでファシリテーションが必要とされている事を実感し、広げ、根付かせることの重要性を感じました。ありがとうございました。

■宇都宮久記：

今回このプログラムに参加して貴重な体験を得ることができました。

まず、一つの研修会に対して入念な事前打ち合わせを行うということや内容に関しての議論を担当者間で行うという過程を随分と疎かにしてきた私にとってはすべてのことが新鮮でありました。相手側の要望に応じてあげるという発想そのものがファシリテーションの最初の一步であるということに気づくことができたことが私にとっての最大の収穫かもしれません。

プログラムに関してはパートの分担制について何度も議論しましたが、ファシリテーションの研修そのものを受け始めたばかりの私にとっては中途半端な内容になることを恐れ、野口さんのアシスタントとして全面的なサポートをすることに努めました。

参加者の看護師さんとは医療の現場で似たような経験をしていることもあり、抱えている悩みに共感を覚えると共にその解決策と一緒に考えていくことができたのではないかと思います。

素晴らしいメンバーと知り合えたことが私にとっての貴重な財産となりました。

□主催：愛知県相談支援専門員協会

□事業名：相談支援専門員のためのファシリテーション入門

□参加者数：42名(受講者31名、ファシリテーター1名、アシスタント2名、見学者6名、事務局2名)

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：上井 靖(理事、中部支部)/ファシリテーター：北川芳一(中部支部)、アシスタント：竹田和矢(東京支部)
西園千江美・奥野康生(中部支部)、見学者：奥山泰樹・田中千恵(東京支部)加藤聡子(関西支部)柘植将介・
水野輝彦・上井靖(中部支部) アシスタントの奥野さん当日は欠席した

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由<主催・依頼者>

「ファシリテーター」という言葉を使って、協会主催の研修の中でグループワークを実施しているが、それが
ファシリテーションになっておらず、主催者がFAJ 中部支部定例会にお試し参加しファシ活の相談があった。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：2010年6月28日に発足した団体であり、障害者の相談支援に携わるものに対して、必要な
知識の習得や専門性向上のための研修の中でグループワーク実施時に、ファシリテーター役を担当している人に、
そもそも「ファシリテーションとは」を知らない人も存在しており、ファシリテーション取り上げることになった。

②ねらい：障害者相談支援技術の研修を実施している講師やファシリテーター(グループリーダー)の養成

③成果イメージ：ファシリテーションを知らない人が、ファシリテーションを理解できる。

1-2月に実施する相談支援従事者初任研修のグループワーク時のファシリテーターができる。

④成果(終了後)：研修当日のアンケート27名より

I.本講座全体を通しての満足度をお答えください。※5=満足している 1=不満である

5~4名 4~13名 3.5~1名 3~9名 2~0名 1~0名

II.本講座への参加は、今後の皆様の仕事や活動において役立ちますか?

5~6名 4~16名 3~4名 2~1名 1~0名

*当日の作品「会議の問題点と対策案」「作成支援計画会議のグランドルール案と心がけること」は

1-2月の会議運営の参考資料として、事務局を通じて参加者に配信していただきました。

□形式：○ワークショップ ●研修 ○その他()

□内容・進行：

実施日時 2010年12月19日(日)10時~17時

*詳細は次ページにて

□ふりかえり<ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など>

☆主催者：

今回の受講者は障害福祉分野ではそれなりの経験を積んだ方が多かったと思いますが、私を含め
職場や研修の場でのファシリテーションは、これまでの現場経験と勘だけを頼りにやってきたことを痛感した
研修でした。まずは入門編として、ファシリテーションを一つの技術として捕らえ体系的に学ぶ機会を与えて
いただいたことに感謝しております。

このセミナー受講後に、愛知県主催の「相談支援従事者初任者研修」を地区別に3回実施しました。
今回学んだ「アイスブレイク」「グランドルール」の手法を取り入れ、またグループワークの際には模造紙、付箋などを
用いて、出された意見を必ず「見える化」することを心がけました。おかげで、これまでいつもファシリ
テーターから反省として挙がっていた「話しすぎの人をコントロールできない」「最後まで意見を言わない人が
残ってしまった」「幅広い議論ができなかった」「ついついファシリテーターが仕切ってリードしてしまった」
などの反省の弁は、今回はほとんど聞かれなかったように思います。

今後はファシリテーション技術を現場で実践し試行錯誤していく中でスキルアップを図っていくことが必要だと思
いますし、そのためにはFAJの皆様にご支援いただくことが不可欠だと感じております。

今後ともご支援よろしく願いいたします。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■北川芳一

主催者の方と事前に6回会合を行い、2名がFAJ定例会とイベントに参加し理解を深めていただきました。1月に開催する会議でファシリテーターを担当する人を養成する視点で研修プログラムを作成したため、問題解決に不慣れな方には戸惑いを起こさせてしまい、もう少しレベルを落として使うツールも指定した方が良かったと反省しています。なお、ファシリテーションの必要性と内容深さと、ファシリテーターとして心がけること及び主要な技術は伝えることができたと思います。

《内容・進行》

9:00 会場設営、受付、グループ別に着席(6グループに分け、5人の役員は各グループに入った)

10:00 事務局によるリエンテーション(主催者あいさつ、諸連絡、ファシリテーター紹介)

10:20 「今日の狙いの確認」

ファシリテーター:西園さん、グラフィッカー:竹田さん
テンポ良く発言促進をして全員で
初めの一歩を一杯にして参加意欲を
盛上げた。



10:35 アイスブレイク「グループ内自己紹介」

講義『ファシリテーションとは』

『グラントルールづくり』…沈黙に耐え、発言促進する見本を披露した

11:10 講義『会議とは、話合いの基本的な流れ、ファシリテーション4つのスキル』

問題解決型ファシリテーションの体験…ファシリテーターを交代して実施した
『個別支援計画作成会議の進め方を研究する』

① 共有『今まで体験したグループワークでの問題を出し絞り込む』

② 原因を特定『原因の探索(発散思考)→原因の分析(収束思考)』

③ 解決策を立案『解決のアイデア列挙(発散思考)→アイデアの評価統合(収束思考)』

④ 合意形成『解決策を決定する』

*問題解決手法に慣れていない人が多く見受けられ、ツールの活用を知っている人が居てリードしたグループとそうでは無いグループで話合いの内容と作品に差がでてしまった。

16:00 『個別支援計画作成会議を設計する』

…2テーマを3グループ単位で話合った

「作成会議のグラントルールを決める」「ファシリテーターとして心がけること」

16:40 『本日のふりかえり』3グループに編成してふりかえった

ファシリテーター:上井さん、西園さん、竹田さん

17:00 閉会、アンケート回収

III.本講座で学習したスキルは理解できましたか。(アンケートより)

☆場のデザインのスキル 理解できた:3、ほぼ:21、あまり:3、できなかった:0名

☆対人関係のスキル 理解できた:2、ほぼ理解できた:19、あまり理解できなかった:6、理解できなかった:0名

☆構造化のスキル 理解できた:2、ほぼ理解できた:15、あまり理解できなかった:10、理解できなかった:0名

☆合意形成のスキル 理解できた:1、ほぼ理解できた:13、あまり理解できなかった:13、理解できなかった:0名



<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■竹田和矢:

参加者の感想や振り返りを通じて、ファシリテーションの有効性を感じて頂けたのではないかと思います。参加者が自ら担当される1月以降の研修に、意識や技術の面でよりよく機能するのではないかと感じました。特に、「発言者の偏り」を課題と認識されていたのですが、「グラントルールの大切さ」などの気づきが挙げられていました。内容が多すぎたとの感想があり、1日のプログラムに対する精査の意見提出ができなかったことは反省点です。身体障害者の福祉をよりよくしたいという参加者の想いに貢献できたのではないかと感じることができて嬉しいです。

■西園千江美:

障がいのある方を支援する方々が、笑顔で取り組み、勇気と自信を持って小さな一歩を踏み出す応援がしたい、という思いで手を挙げました。主催者とお話しする機会にも2度参加できましたが、結果として、現状把握と多岐にわたる思いを拡げたまま、時間切れで当日を迎えた感が否めず、事前打ち合わせで妥協はダメということを感じました。当日の参加者の様子をみながら柔軟に対応したこと、主体的に取り組む参加者のおかげで明日へつながる時間が生まれたと感じています。

□主催：沖縄県北部広域村圏事務組合

□事業名：「北部広域”やんばる” 12 市町村「自転車活用まちづくり」のビジョンとは！」

□参加者数：約 57 名（一回目 23 名・二回目 19 名・三回目 16 名＝総計 58 名）

□プログラムを担当した F A J 会員

コーディネーター兼ファシリテーター：大城武秀（沖縄サロン）／アシスタント：（1～3 回）池原康二（沖縄サロン）（1～2 回）室谷恵美、（3 回）鈴木まり子（東京支部）／見学者：無／プログラム担当理事：平山 猛

□ファッションを活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

これまで 22 年間も継続してきた「ツール・ド・おきなわ」は、警察や学校、町内会に至るまで協力体制を構築し、12 市町村全体で支えてきました。また、資源を活かしたいという思いと、自然破壊が進行する中で、やんばるの自然を守るためにも、「環境・健康・交流（観光）にも役立つ自転車」が、まちづくりの一躍になることを願っています。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：「やんばるはひとつ」というスローガンの元、12 市町村の市民ボランティアと一体となって取り組んでいる。「ツール・ド・おきなわ」という自転車の国際大会を実施していますが、2 日間だけの単なるイベントで終始しており、現在も日々の生活や観光に自転車が活かされていません。

②ねらい：自転車活用について、12 市町村がひとつとなるビジョンを統一することで、具体的なアクションにつなげたい。

③成果イメージ：身近すぎる自然環境と地域資源を再確認し「ツール・ド・おきなわ」という広域のイベントを地域活性化に活かすためにも、12 市町村が自分たちのイベントでもあることを再認識し、これからの時代に合った環境を考えた地域づくりを模索するための切っ掛けにしたい。

④成果（終了後）：今までの反省会より課題や改善案など積極的な意見が出て、反省会のあり方の気づきになりました、また、第三回の WS で出た地域資源や地域が取り組んでいるイベント、地域活動を次回の「ツール・ド・おきなわ」でどのようにアピールしていくか楽しみです。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2011 年 1 月 14 日、2 月 18 日、3 月 4 日（全 3 回）

第 1 回：「ツール・ド・おきなわ大会反省会」／「サブ：反省会をワークショップへ！」

第 2 回：「やんばるの地域活性化」ワークショップ／「サブ：地域資源をお客さま目線で考え気づく」

第 3 回：「やんばるの地域活性化」ワークショップ／「サブ：スケジュールの共有からアクションへ」

□ふりかえり＜ファッションを活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：これまで会議形式の反省会として開催され問題点の指摘だけが目立つ内容でしたが、今回 WS 形式を取り入れることで、意見が拡散され多くの気づきを得ることができました。運営体制の課題から改善へ取り組む機運も上がったと感じています。また、12 市町村が関わる広域のイベントととして、参加された市町村の担当者も自分たちのイベントとして地域活性化に活かせる可能性に気づき今後の取り組みが楽しみです。

地域活性化のために広域イベントを活用しよう！

第1回目：反省会をワークショップへ・感想

大会事務局が主催するため、反省会という趣旨のもとWSを企画することに、さてどうしたものかと思い、企画会議を重ね、そもそも論へ行き着き、イベントの目的を思い出してもらい、反省である問題点を改善案へつなげるフレームを使用しました。
＜参加者の感想＞・いつもは反省会として終わり → 同じコトを繰り返していた。
・ワークショップで共通認識できた。解決できそうな気がしてきた。
・毎年の反省会 → 反省のみ・悪ものさがし → ボトムアップすれば、もっと良い大会なると思った。
・良い大会にしたいという気持ちは同じだった！次の大会に向け頑張っていきたい。
・どのように市町村のイベントにしていけば良いか考えて行きたい。



第2回目：地域資源をお客さま目線で考え気づく・感想

地域資源とはといっても、あまりにも身近すぎるためイメージが膨らまない、そこで、お客さま目線で「耳の痛い話・良かったこと」をワールドカフェで拡散、そして、地域の資源を見つめ直し「ないこと、できないことを」活かす視点に立てた。
＜参加者の感想＞・あらためて、表裏一体を感じた。ツールドに活かしたい。
・自分では分からなかったコトを聞くことができた、それを活かしたい。
・テーマを決めて全員で意見を出せたのが良かった。
・クレームを考えたコトがなかった、今後は深く考えていきたい。
・数だけを考えてきたが、小さなコトを充実させることで、より良いモノになると気づいた。
・自分にできることからやりたい。
・初心に戻って考えて行きたい。
・ツールドのみならず、自分も一つずつの積み重ねだと思った。



第3回目：スケジュールの共有からアクションへ

地域別、時間軸で見える化、アイデア・スケジュールフレームを壁一面に使い全体で共有、整理していきました。そして、地域活動の可能性が拡がりました。
＜参加者の感想＞・まちづくりで、これだけネタがあるのはうらやましい！ルポテンシャルが高い。
・共有したいのは理解できるが、「ツールドそのものが名護市民のものになっていない感じがする」「パクレそうなアイデアもあった」
・本島側と離島の視点の違いに気づけた。島に戻って今日のことを共有したい。
・時間をもてあしている選手へアプローチしたい。「ワクワクしている、ちゅら海とか絡められそう」
・ツールド1年間休止はありか！「反省会だけでは終わりにならないようにしたい」「誰のためのツールドなのかを考えるいい機会になった」



●スタッフ振り返り・メッセージ

大城武秀／沖縄初のファシ活によるまちづくりの現場をメインファシリテーターとして参加して、自問の連続でしたが自分自身大変収穫のあるWSでした。

それは、ファシリテーターとしてプログラムをデザインするにあたり、担当者とのヒアリングの中から背景をくみ取りプログラムをデザインするという貴重な体験でした。その背景には、長年続けられてきた12市町村連携の大きなイベントでもあり、関係者の多大な苦労とガンバリで築き上げて来たことから強い思い入れはあるものの、手段であるはずのイベントが目的化しているなど、課題が山積している様子も伺えましたが、地域がもっと主体的に取り組んで欲しいという要望もあり、さて、どこに狙いを定めるか、参加者のベクトルをどう合わせるか大いに悩むこととなります、しかし、そのプロセスがあったからこそ多くの気づきを得ることができプログラムをデザインする際にヒアリングがとても重要な位置を占めているコトを実体験したのです。

プログラムの作り込みに関しては、まだまだ、改良の余地は多々ありますが、発問やフレーム作りにメンバーのサポートのお陰でワークを作り込むことができました、また、当初の狙いであるビジョンの入り口には立てたのではないかと思います。

今後の課題として、WS形式に不慣れな参加者の方々のためにも違和感なく参加できるような仕組みも考え、「地域が自力で元気に」沖縄にファシリテーションが根付くことを目指し取り組んでいきたいと考えています。

□**主催:**秋田市地域包括支援センター（社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会）

□**事業名:**秋田市地域包括支援センター 全体研修会「ファシリテーションの基礎知識について」

□**参加者数:**約 33 名

□**プログラムを担当したFAJ会員**

コーディネーター兼ファシリテーター:新開佐和子(横浜)

アシスタント:伊藤晴美、小山田聖子、高杉静子(秋田)、小野仁志(一関)／見学者:遠藤智栄

プログラム担当委員:遠藤智栄

□**ファン活を活用しようと思ったきっかけや理由<主催・依頼者>**

地域包括、在宅介護支援センターで開催の地域ケア会議、カンファレンス等において活用できるように、ファシリテーションの基本的な考え方や議論を整理する技術を学びたい。

□**事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④**

①**背景:**主催者様が厚労省の中央研修に参加されたことが切掛けのご依頼。

②**ねらい:**各地域包括支援センターの円滑な運営と資質向上、関係機関との連携・協働。

③**成果イメージ:**参加いただいた方々がそれぞれ、まとまらない会議への工夫や板書にチャレンジしていくようになっていただく。

④**成果(終了後):**アンケート結果より

1. 本日の研修について(回収 26 通):参考になった(24 通)、あまり参考にならなかった(1 通)、どちらもいえない(0 通)、チェックなし(1 通)

2. 明日からやってみたいこと(複数回答):会議の目的(20 通)、板書(15 通)、その他(1 通)

□**形式:** ○ワークショップ ●研修 ○その他()

□**内容・進行:**

実施日時:平成23年3月4日(金) 13:00~17:00

会場:秋田市河辺総合福祉交流センター 三世代交流ホール

対象:秋田市内地域包括支援センター職員、秋田市内在宅介護支援センター職員

内容:講話と演習

「ファシリテーションの基礎知識(効果的な会議の進め方)~恐れなくてチャレンジしてみよう~」

□**ふりかえり<ファン活を活用・実践し良かった点と改善点など>**

☆主催者:たいへん有意義な講話をいただき、参加いたしました地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員も、今後の事業展開に対する意識を新たにできました。(アンケート結果受領時書面より)

☆FAJ会員:主催者の方々と事前打合せ 1 回、アシスタントの方々とはスカイプミーティングで準備し、メールで補足して進めましたが、皆さんが積極的に取組んでいただけたことが当日につながりました。今回の研修では、ファシリテーションを知っていただき興味を持っていただくと共に、明日から何かチャレンジしてみたいことを目的とし、ワークを多く体験していただく内容としました。

出だしは硬かったのですが、グループ名を決めるあたりから皆さんの表情が柔らかくなり、ワークも積極的に取組んでいただきました。4 時間で講義・ワークとかなり詰め込みましたが、明日からのチャレンジのきっかけになることを期待しています。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■内容・進行

- 13:00 はじめに（主催者あいさつ、ファシリテーター紹介）
- 13:20 アイスブレイク ♪ラフターヨガ(笑いヨガ)で笑いましょう♪
- 13:30 講義『ファシリテーションとは?』、
『4つのスキルの説明』、『場のデザインのスキル』
♪参加者の皆さんが会議で困ってることを共有することから始めました。♪
- 14:00 ワーク1『目的目標を考える』、『会議終了まで目的目標を意識するための工夫を考える』
♪板書の活用、目的目標を貼る・配ること、意見を復唱して共有、タイムスケジュールを意識、気分転換を図る、メンバーの選定を考える、等の意見がでました♪
- 14:40 休憩
- 14:50 講義『対人関係のスキル』
『構造化のスキル』
- 15:10 ワーク2『板書のワーク』
♪アシスタント2名が会話、それを全員で板書し振返ることを、2回行いました。
みなさん工夫がありました♪
- 15:40 休憩
- 15:50 講義『合意形成のスキル』
- 16:00 ワーク3『実際に会議してみよう』
♪ワーク1、2を活かして各チームで模擬会議を実施♪
- 16:30 振返り ♪グループ、全体で振返りました♪
- 16:50 クロージング（閉会、アンケート回収）

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■伊藤晴美：

小雪舞う3月、地元秋田でのファシリテーション講座にアシスタントとしてチームの一員に加えていただき、チームでプログラムを組み立てる醍醐味を味わうことができました。本番はもとより、事前打ち合わせが大きな鍵であり、メンバーの個性が引き出されることを膚で感じました。高齢者率が日本一の秋田で、福祉分野において講座を行った意義は深く、大きな一歩であったと思います。

■小山田 聖子：

メンバーの皆さんとはWeb会議で何度も打ち合わせをしていましたし、メンバーの中には知っている方もいらしたので私自身は全く不安なく、どちらかというワクワクしてその日を迎えました。参加者のみなさんは、始めはファシリテーションという言葉自体初めて聞いた方や、何をやるのかまったく予想できずに参加した方も多かったようで、緊張感の漂う雰囲気でした。

しかし、私たちアシスタントスタッフが講座中会場内にいたことで、気軽に質問することができたりと、安心して活動できたグループもあったようなので、少しはお役に立てたかなと思います。

そして、ワークのあとに振り返る時間を多く取っていましたので、グループ内で話し合うことでより理解できたことも多かったかと感じました。

参加者の皆さんが今回の講座で、ファシリテーションに興味を持ってくれるといいなと思います。

■高杉 静子：

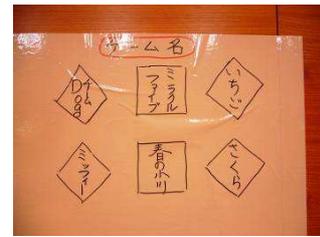
初めてのアシスタントということで、少々緊張して臨みましたが、数回のウェブ上での打ち合わせがあったため、スタッフの一員として共同作業に当たることのワクワク感もありました。

板書をする際の呼吸、タイミング、そして板書そのものの内容など、やりながら体得できることも多く、良い経験ができた。介護や包括支援にかかわる方々が、ファシリテーターとしての技量を身につけて行くことは大変意義深いことだと感じますので、今回の経験が必ず役に立つと手ごたえを感じられて嬉しいワークショップでした。

■小野 仁志：

秋田でファシリテーションの講座をお手伝いできたこと、FAJの秋田の方々と交流ができたことが、とても大きな財産になったように思います。東北の中でもなかなか交流ができず、ファシリテーションも浸透しづらい中で、これからのステップになっていくと思います。

参加された方々とも、継続的につながり、フォローアップ出来るようなつながりが、できればと思います。



ファシリテーション活用支援プログラムでの実践を通じ、 FAJ の中期ビジョン2012を実現しよう♪

中期ビジョン 2012

- ・ファシリテーションのマインドとスキルが社会に根つき、日常の対話の中で自然に使われている
- ・ファシリテーションを学び、育て、活かせる場を日々耕し、多様な人や組織がつながっている
- ・人と人が響きあう社会を創りだすために、多くのファシリテーターが当事者として現場に立ち向かっている
- ・われわれならではのファシリテーションの知恵を世界に発信し、新しい地平を切り拓いている

● ファシリテーション活用支援プログラムのお申し込み・お問い合わせ ●

FAJ ホームページからお願いいたします。

1. <https://www.faj.or.jp/> のバナーをクリック



ファシリテーション
活用支援プログラム →

2. または、直接「ファシリテーション活用支援プログラムのご紹介」ページからどうぞ
https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=1766

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会
ファシリテーション活用支援プログラム 2010年度実施報告書

発行日：2011年6月

発行者：特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 (FAJ)

(151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-12-8 ル・グラン原宿)

ご連絡は、<https://www.faj.or.jp/> の「問い合わせ」ページから、
もしくは FAJ ファシ活委員会アドレス shien@faj.or.jp までお願いいたします。